

みんなの財産である尾瀬をこれからも守り続けていくため、活かしたい尾瀬の強みを高めながら、3つの視点を大切に「みんなに愛され続ける尾瀬」を目指しましょう。

尾瀬がめざす姿

- 「生きもの」の視点
尾瀬本来の生きものがあるまに生きている
- 「利用者」の視点
いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる
- 「地域」の視点
地域の人々が誇りを持っていきいきできる

行動理念

「尾瀬がめざす姿」を実現するため、次の行動理念に基づき行動しましょう。この考えは、前回の尾瀬ビジョンから大切に引き継がれてきたものです。

みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ

- みんなの尾瀬
尾瀬の普通の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう。
- みんなで守る
かけがえない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう。
- みんなで楽しむ
自然を損なわずに楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたい尾瀬にしましょう。

新・尾瀬ビジョン
～「あなた」と造る「みんな」の尾瀬～
詳細ダウンロードはこちら



尾瀬国立公園について

名峰に囲まれ花咲き乱れる日本最大の山岳湿原
尾瀬国立公園の歴史は古く、昭和9(1934)年に日光国立公園の一部として指定されていましたが、平成19(2007)年に日光国立公園から尾瀬地域を分離し会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山などを編入して、29番目の国立公園として指定されました。尾瀬の名は、唱歌「夏の思い出」でも広く知られており、日本最大の山地湿原である尾瀬ヶ原、噴火によって沼尻川の源流部が堰き止められてできた尾瀬沼、これらを取り囲む至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山などの山々が織りなす美しい風景を特徴としています。また、尾瀬は、過去に幾度も開発の危機にさらされましたが、多くの人々の努力によって今日でも貴重な自然が保たれており、日本の「自然保護運動の原点」とも呼ばれています。

指定：平成19年8月30日 面積：37,222ha

尾瀬は国立公園です。

将来にわたって尾瀬の自然を楽しむことができるよう、尾瀬国立公園は全域にわたって「特別保護地区」及び「特別地域」に指定され、生態系と景観が厳重に保護されています。



尾瀬はラムサール条約湿地です

多様な生物を育む重要な湿地を、国際的に守るラムサール条約により、尾瀬は湿原生態系としての価値が評価され、2005年11月に「ラムサール条約湿地」として登録されました。



尾瀬は特別天然記念物です

尾瀬は、国の「特別天然記念物」に指定されています。学術的価値が高く、その保存が厳しく義務づけられています。



生まれたての草花がときめく

半年間の厳しい冬を乗り越え、やって来る緑あざやかな季節。湿原の雪が解け切る5月下旬から、ミズバショウやリュウキンカなどがいっせいに花を咲かせます。草花が春風にそよぐ光景は、シーズンの幕開けを告げる喜びのダンスのようです。

春



タチヤマザンドウ
(5月下旬～6月下旬)



リュウキンカ
(5月下旬～6月下旬)

TOPICS

逆さ至仏を映す水面に佇む木道に、どこか不思議な感覚を覚える絶景。それは、尾瀬ヶ原が雪解け水で満たされる春のほんのひと時だけ見られる現象で、一部のハイカーからは「尾瀬ヶ原湖」の愛称で親しまれています。



すべての生命が輝きに満ちる

尾瀬が最も華やかになるシーズン。梅雨の始まる6月下旬頃から目立ち始めるワタスゲの白い綿毛に続き、梅雨明け直後に最盛期を迎えるニッコウキスゲがハイカーを和ませます。山岳湿原を彩る希少な草花、ハッチョウトンボなどの昆虫との心躍る出会いが待っています。

夏



ハクサンコザクラ
(6月下旬～8月上旬)



オゼコウネ
(7月中旬～8月中旬)

TOPICS

尾瀬に降った雨水のほとんどが集まり、轟音とともに流れ落ちる「三条ノ滝」。湍流というイメージとは対極的な豪快さで、大自らの営みの一端を垣間見せてくれます。特に雪解けにより水量が増す初夏は圧巻です。



安全登山のお願い

クマに出会わないために

自分の存在をしらせよう
人通りの少ない場所では、鈴や声などで自分の存在を伝える。
朝夕の薄暗い時間帯は、クマの活動が盛んなのでなるべく行動を避ける。
食べ物の管理をきちんとしよう
食べ物を落としたりすると、クマを呼ぶことになるので、食事後は周辺を良く確認し、拾って持ち帰ってください。



クマに出会ったら

あわてない ゆっくりその場から離れてください。
さわがない 大声を出さない。写真撮影をしない。
走って逃げない 走るとクマは追いかけてきます。
子グマに近づかない
子グマに不用意に近づくと、子グマを守るため、親グマが攻撃してくることがあります。たとえ見えなくても親グマが近くにいるので、可憐でも絶対に近づいてはいけません。

尾瀬保護財団
「ツキノワグマとの共存」



余裕を持った計画で

自分の体力や体調に合わせて、必要な装備をととのえ、適切なコースを選び、体力・時間に余裕を持った計画が大切です。登山初心者の方は登山経験のある方と一緒に登ることをおすすめします。

歩くときの注意

尾瀬でのクガの7割以上が木道上で転倒・転落です。まずは小さな歩幅でマイベースに歩くことが、安全で疲れない歩き方です。木道に取り付けられた横木等を利用する。ストックを使う。グリップ力のある靴を履く等、小さな積み重ねが足の負担を軽くします。
※ストックは先端のゴムキャップを付けずに登山道や木道を必要以上に突き刺すと、早く傷んでしまうので注意しましょう。

天候の確認

入山する前に必ず天気予報を確認しましょう。また、山岳地であり、天気が変わりやすく朝晩は冷え込むため、雨具や防寒具は必ず準備しましょう。天候の変化に応じて途中で下山したり、予定コースを変更する等の判断も大切です。

尾瀬のトイレ事情

山岳地に設置されるトイレは、水・電気・アクセス道等の厳しい条件下で稼働するため、管理には多大な労力と経費が必要です。例えば、尾瀬には車道がないため汚泥等の運搬にはヘリコプターを使用しますがその費用は莫大なもの。そのため、尾瀬では各トイレをチップ制にし、1回100円程度の協力金をお願いしています。登山前にトイレを済ませるなど、皆様の心掛けによって、トイレの使用回数を抑えることが可能です。また、トイレを清潔に利用すれば、管理にかかる労力を抑えられます。トイレに限らず、国立公園の美しさを守るためには、皆様のちょっとした心掛けがとても重要なのです。

マナーとルール



ゴミは持ち帰る



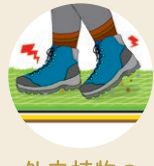
湿原には立ち入らない



動植物を大切に



ペットは持ちこまない



外来植物の侵入を防ぐ



木道は右側通行



ストックにはキャップを



騒音を発さない



お金は投げ入れない



場所を独占しない



たき火は禁止



異日常との運命的な 出合いを体験

多くの山小屋とキャンプサイトがある尾瀬。夕景や朝霧に映える幻想的な風景、手を伸ばせばつかめそうな満天の星空などは、尾瀬に宿泊した人だけの持権です。ゆっくりと流れる時間、自然と一体化する感覚、すべてが忘れられない特別な体験になります。

夕景の尾瀬沼



カフェや食堂でくつろぎのひととき



テントサイト



星の降る夜(イメージ)

TOPICS

朝霧の出やすい尾瀬の盆地地形が生み出す「白い虹」。早朝の湿原に発生する朝霧に、太陽光が屈折することで発生する神秘的な現象です。こんな光景と巡り合えたら、尾瀬の思い出は一層深まるはずです。



白い虹

尾瀬の美しい思い出とともに

尾瀬を象徴する湿原は、枯れた植物が分解されずに長い年月にわたり積み重なってできたものです。なぜ枯れた植物は分解されないのでしょうか？その秘密は約4℃という尾瀬の年間平均気温にあります。冷蔵庫並みの酸素の少ない水中という条件が湿原をつくってきたのです。「分解されない」のはごくも同じこと。わたしたちが大好きな尾瀬を後世に伝えるため、尾瀬の美しい思い出とともにわずかながらゴミを残さず持って帰りたいですね。